

アス合材保温箱の 25年モデル受注開始

リバースプラン

リバースプラン(本社・札幌)は、自立式アスファルト合材保温箱「エコ・アス・ボックス」の2025年モデルの受注を開始した。ガスや電気などの再加熱用動力なしで、遠距離プラントからアスファルト合材を輸送できる製品。上部ハッチの隙間部分を改善し、保温性がさらに向上した。4月からリース・レンタルサービスも開始予定だ。

特許を取得した容器内部 0.560㎡の軽量設計を形状と8種類の素材を組み 実現した。4トンプなら合わせた外壁保温材で、高 最大3トの合材を運べる。い保温効果と本体重量51 プラント休業時や作業中断



4トンプに搭載したエコアスボックス

時にはストックヤードとしても活用できる。

24年10月24日に北海道発明協会の24年度北海道地方発明表彰で発明奨励賞を受賞。1口3トの合材を使用した場合、シート保温と比べて10日で9・6トのCO₂を削減できるなど、GX(グリーン・トランスフォーメーション)への貢献が評価された。

25年モデルのGX-555Aは、側面部に廃材が積み込めるよう、アルミ編鋼板で補強。GX-555Bは、側面部の汚れが目立たないようつや消し塗装を施した。両製品とも細部部材も改良している。

今後予想される地方や離島でのプラントの空白化と遠距離問題、2025年問題や週休2日制度、働き方改革への対応にも効果を発揮する。能登半島で発生した地震や豪雨災害の復旧支援設備として有効利用できると見込み、石川県舗装事業協会に提供を打診している。

鈴木讓社長は「先祖が石川県志賀町の出生であることに縁も感じた。開発した製品が、今後起こりえる災害時の初期道路メンテナンスで、復興支援に貢献できれば感無量だ」と話している。